

保健医療福祉連携論

単位数（時間数）：1 単位（15 時間） 必修/選択：必修 履修年次：3 年次 開講時期：前期

科目責任者（職位・氏名）：教授・大沼由香

科目担当者（職位・氏名）：非常勤講師・佐藤元美、准教授・越納美和、助教・太田ゆきの

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：58

■ 授業概要

保健医療福祉の動向（変遷と現状）から、連携の意義、看護の役割を教授する。
看護職が保健医療福祉活動を実践する際に必要となる他職種との連携について、他職種の役割、連携方法について教授する。

■ 到達目標

1. 「連携」の基盤となるケア・スピリットについて考察し言語化できる。
2. 地域ケアシステムについて概要を説明できる。
3. 連携していく機関と他職種の専門性や機能を理解し、説明できる。
4. 看護師に求められる「連携」を促進する方法について理解し、説明できる。

■ 教育内容

地域・在宅看護論、公衆衛生看護活動展開論

■ キーワード

地域包括ケアシステム、地域医療、地域共生社会、多職種連携、

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	保健医療福祉の動向	授業オリエンテーション 地域共生社会の実現を目指す背景 講義・グループワーク	大沼
2	保健医療福祉の展望	地域共生社会の実現への展望 講義・グループワーク	大沼
3	地域・在宅医療の現状と展望	地域医療の歴史と現状 講義	佐藤
4	専門機関との連携	機関別連携（行政機関・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所・サービス事業者） 講義・グループワーク	佐藤
5	専門職との連携	医師との連携、看護への期待 講義・グループワーク	佐藤
6	住民との連携	住民との連携 専門職以外の人々との連携 講義・グループワーク	佐藤
7	多職種連携の意義と方法	多職種連携の実際 グループワーク	越納 太田
8	保健医療福祉の連携の展望と課題	グループワークの発表 授業のまとめ	越納 太田

■ 履修条件

地域・在宅看護学概論を履修していること。

■ 成績評価方法

授業態度（10%）、グループワーク（20%）、レポート（70%）、

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

講義中にコメント等を行う。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア

■ 参考書・参考資料等

授業内でその都度、紹介する

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・授業1コマにつき、事前・事後学修としてそれぞれ90分程度必要とする。
- ・事前学修として、指定された範囲の教科書を読み、質問事項をまとめておくこと。
- ・事後学修として、授業時配布資料とノートを読み、内容が理解できているかどうかを確認すること。

■ 担当教員からのメッセージ

保健・医療・福祉の活動において、多職種連携なしには地域包括ケアは実現しません。多職種連携の意義と方法を考え、地域・在宅看護学実習Ⅰに活かしましょう。（大沼）
地域における保健医療福祉の実践では多職種協働が重要となります。私は藤沢町での実践を通して住民と対話し、住民と共に学ぶ多職種協働が効果的でやりがいのあるものと確信するようになりました。そのことをお伝えしたいと思います。（佐藤）

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

大沼：研究室 15、yu-ohnuma★iwate-uhms.ac.jp

越納：研究室 22 koshinou★iwate-uhms.ac.jp

太田：研究室 24 yoota★iwate-uhms.ac.jp

オフィスアワーは特に定めませんが、事前にメールでご連絡の上、訪問のこと。

(※メールの際は★を@にしてください)

佐藤：講義終了後の時間を設定します。その他は学務課へお問い合わせください。

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

医師・看護師・助産師・介護支援専門員

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

病院や地域包括支援センター、訪問看護ステーションでの実務経験を活かし、専門的で実践的な講義を行います。